

RX-7 RR5

取扱説明書

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用いただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。

本書の各図記号は下記のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

安全のため、守っていただきたいこと

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願いいたします。

▲ヘルメットは購入前に必ず試着して、自分の頭に合ったサイズである事を確かめる！

安全のためには、「自分の頭に合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということが大切です。サイズの合っていないヘルメットでは十分な安全性能を発揮することはできません。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、モデルによってフィット感が異なります。以下の①～③を試着のポイントとしてヘルメットをお選びください。①希望するヘルメットを実際にかぶる。②ヘルメットをかぶって頭を上下左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットが追従する。③内装のフィット感が頭に対して均一である。



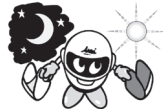
▲あご紐を正しく締める！

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を締めていなければノーヘルと同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を締めてください。



▲状況に応じたシールドを選ぶ！

周りが暗くなってきたのにも関わらずスモークシールドのままで走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のシールド（アライヘルメット純正クリアーシールド、ライトスモークシールド）に交換してください。また、取り外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▲走行中の急激な環境変化に注意する！

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温、湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（表面か内面かは、状況によって変化します）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時には、シールドを微開にしておき、予め内外の温度差を少なくしたり、適切な走行スピードに調節するなどの注意が必要です。



▲衝撃を受けたヘルメットは再使用しない！

ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収し、頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例外外観に大きなキズが見られなくても衝撃吸収のために内部構造は壊れています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。※ヘルメットの検査は無料。ヘルメット往復送料はお客様のご負担となります。

▲ヘルメットを塗装する際の注意！

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの外側を中性洗剤（食器洗い用）で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーは塗料に含まれる溶剤に侵されると、溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。ホルダーなどの樹脂成型品は塗装に適しませんのでご注意ください。

▲走行中のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中に、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの各操作は、オートバイが停車状態の時に行ってください。ただし、シールドの開閉操作は視界の確保などに必要なもので、この限りではありません。

▲ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、これによって頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界、聴力、運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは、高周波のカン高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり、聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。

▲ヘルメットを不安定な場所に置かない！

オートバイのタンクやシート上など、不安定でツルツルした場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが滑り落ちるおそれがあります。ヘルメットは、中身が空の状態では1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。※1m以下からの落下でも同じ所を連続して落下させた場合、ヘルメットの性能は低下します。



▲ヘルメットをミラーに引っ掛けない！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナーが変形するおそれがあり、変形したライナーは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメット裾部のエッジモールを傷付け、それをきっかけにエッジモールが剥がれたり、割れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。

▲ヘルメットの持ち運びにはご注意ください！

ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や、車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。

▲ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機、ドライヤー、ストーブ、各種ヒーター類、電子レンジ、オーブンなどで絶対に乾かさないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はお止めください。

▲ペットの近くにヘルメットを置かない！

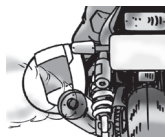
ペットの行動範囲内にヘルメットを放置しないでください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引き摺り回したり、中で寝たり、内装生地やウレタンクッションを巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品をペットが誤って飲み込むおそれもありますのでご注意ください。

▲ヘルメットの性能は永久不変ではありません！

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化など経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。ご使用中のヘルメットに特に異常が見られなくても、SGマーク※の有効期限を目安に、着用開始日から三年以上経ったヘルメットは買い替えをお勧めします。※財団法人製品安全協会の被害者救済制度

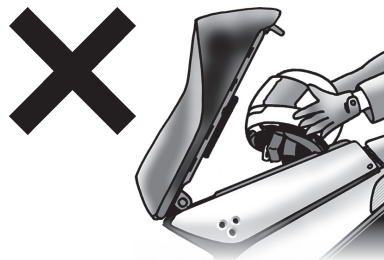
▲ヘルメットを長期間ご使用の場合は、樹脂成型パーツの定期点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行い、点検結果に応じた部品の交換を行ってください。



エアロフィン付きヘルメットのご注意！

エアロフィンの変形や破損が生じるおそれがありますので、オートバイシート下のヘルメット収納スペースに、当ヘルメットを入れないでください。



▲パニアケース等収納BOXにヘルメットを入れる際は、収納時のヘルメットの周りに隙間が確保されている事を必ず確認してください。十分な広さが確保されていない場合、収納BOXの蓋を閉めた際にヘルメットに衝撃や圧力が加わってダクトやエアロフィンの変形や破損が生じるおそれがあります。

▲気温の高い日ヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、収納BOXがマフラーに近い場合も、内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

▲エアロフィンのベースやベンチレーションダクトは、強力な両面テープや小さなネジでヘルメットに固定されています。無理に取り外そうとすると破損するおそれがあります。

PB-SNC RX-7 RR5

円周状にスーパーファイバーベルトを配置する【PB - cLc】と、複合ネット構造の【SNC】を合体させた、新製法帽体PB - SNCと、可変機構付きエアロフィンをはじめ幾つもの新機能を搭載したRX - 7RR5。その活躍の場はサーキットはもとより、ストリートでもそのポテンシャルをいかに発揮する。

ベルトとネットの融合、PB (Peripherally Belted) - SNC

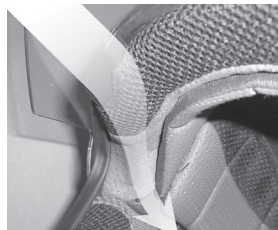
RX - 7RR5用に開発が行われた帽体は、基本となるSNC構造にPB - cLcのコンセプトを融合させ、軽さと強さと粘りの三本柱を構築させるための試みをトライし続けました。その実現の為、繊維密度をアップして樹脂との結合力を高めた【新型スーパーファイバー】と、粘り強さと軽量化に貢献する【新型特殊化学繊維】を新たに採用して誕生したのが【PB - SNC】です。

新設計、スーパーアドシスI (アイ) タイプを搭載

視界をよりワイドにするために、シールド面積を拡大した【スーパーアドシスIシールド】を採用。また、シールドベースにも大幅な改良を加え、操作性を向上させた【スーパーアドシスIシールドベース】へと進化。

先進のベンチレーションシステム

スイッチの大型化による操作性の向上と、気流を整える新機能『エアロフィン』の先進性を併せ持つ『ディフューザーシステムType10』と、同様に大型スイッチを備え、スリム設計で空気抵抗を抑えた『デルタダクト5』のコンビネーションで頭部を強力にクールダウン。ブローベンチレーションから取り入れられた空気は『インナーサイドダクト』に導かれ、空気流が滞りやすい左右のこめかみ部分にフレッシュエアーを供給。ヘルメットの安定を図るストレーキとしても機能する『サイドエキゾーストダクト3』と、ネックパッドに設けられた『NEノズル2』は、インナーサイドダクトから供給され、耳周辺の熱を帯びた空気やヘルメット下部に停滞する空気を適度に排出。



インナーサイドダクト

可変式エアロフィンシステム搭載

ディフューザー後部に取り付けられた可変式エアロフィンによってヘルメット上を流れる気流をコントロールし、ヘルメット後方に生じる乱気流を抑えて高速走行時のヘルメットの挙動を安定させます。

二つの機能を選べるパワーインテークシャッター

口元のパワーインテークシャッターは、口元のこもりを解消するF. S. Sモードと、シールドの曇りを除去するデフロストモードの二つの機能を選んで使うことができます。

可動式エアロフラップ搭載

可変機構に改良が加えられたエアロフラップ5は、アゴ下からの風の巻き込みを軽減してヘルメット下部の整流効果とF. F. S機能を向上。

新設計フルシステム内装による快適なかぶり心地

海外市場で高い評価を受けているアライの固定式内装。その優れたかぶり心地を、着脱式内装に移行すべく開発されたのがTRシステム内装です。新RX-7には、改良を加えたRRVシステム内装が採用され、長時間の走行でも違和感のない心地良いフィティングを実現。また、着脱可能なシステムストラップとシステムネックを採用し、汚れやすいアゴ紐カバーとネックパッドも外せて洗えて交換も簡単に行えます。

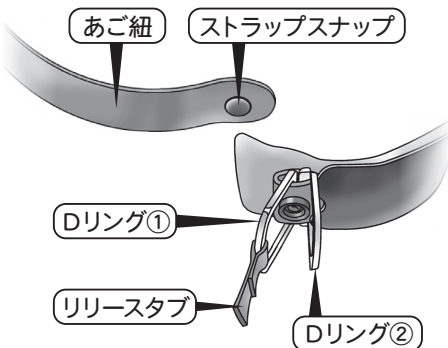
目次：ページ		H	ベンチレーションの操作：13	P	ストラップカバーの着脱：26～27
A	あご紐の正しい締め方：8～9	I	エアロフィンの操作：14～15	Q	システムネックの着脱：28～29
B	ブローベンチレーションの操作：10	J	シールドの外し方：16～17	R	システム内装の着脱：30
C	シールドの開閉：10	K	シールドの付け方：18	S	ヘルメットサイズの微調整：31
D	デミストの使い方：11	L	ホルダーの着脱：19	T	ヘルメットのお手入れ：32～33
E	マウスシャッターの操作：11	M	シールドベースの着脱：20～21	巻末付録①～③：34～35	
F	ディフレクターの着脱：12	N	システムパッドの着脱：22～23		
G	エアロフラップの操作：12	O	パッドカバーの着脱：24～25		

※シールド、シールドベース、システム内装、システムパッドの四点はRX-7RR5専用パーツとなります。この四点を、種類の異なるヘルメットに取り付ける事や、種類の異なるヘルメットからこの四点にあたるパーツをRX-7RR5に移植する事はできません。

A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。

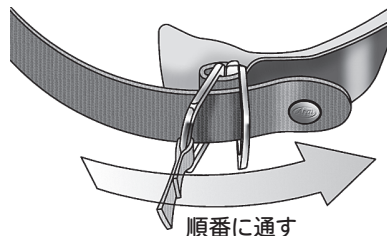
あご紐各部の名称



1. あご紐を、二つのDリングに通す

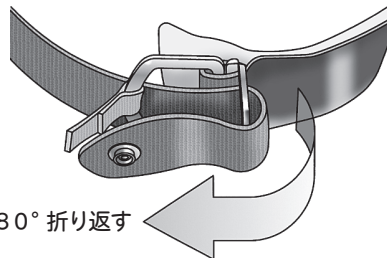
あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。

※途中で、あご紐がねじれないように注意してください。



2. あご紐を180° 折り返す

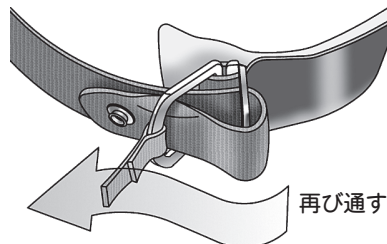
二つのDリングにあご紐を通し終えたら、あご紐の先端を軽く引っばって弛みを取り除きながら180° 折り返します。

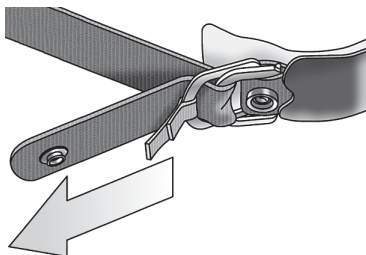


3. あご紐を、Dリング①に再び通す

折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。(右図参照)

※途中で、あご紐がねじれないように注意してください。





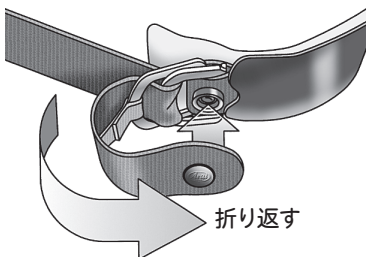
4. あご紐を引っぱる

あご紐先端を矢印の方向に引っぱると、あご紐が徐々に締まります。

※あご紐の引っぱり加減で、締め具合を調節することができます。

あごの下とあご紐との間に指を一〜二本差し入れ、襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあご下に触れる位が適切な締め具合です。

※人差し指と中指の一番太いところが、直径20mm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



5. 余った先端部を留める

あご紐の先端をストラップスナップで留めることで、あご紐のバタ付きや、面ファスナーへの付着が防止できます。

あご紐がブラブラだと乗車服や雨ガッパなどの襟元の面ファスナーにあご紐が付着し、周辺確認時の首の動きを妨げるおそれがあります。余ったあご紐は、きちんとストラップスナップで固定しましょう。

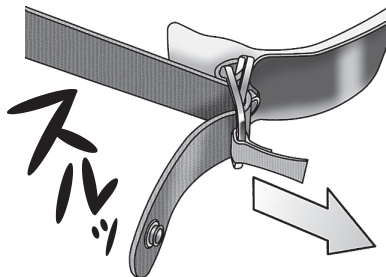


危! 険



あご紐を正しく締めていない場合、転倒時にあご紐が緩んでヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。

あご紐が面ファスナーに接触すると、毛羽立ちの原因となります。



リリースタブの使い方

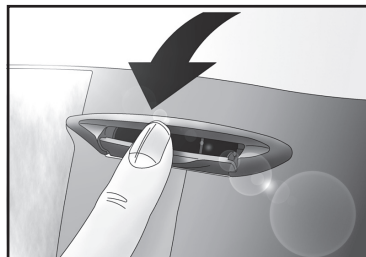
ストラップスナップを外し、リリースタブを摘んでの矢印の方向に引っぱると、あご紐を簡単に緩めることができます。

B ブローベンチレーションの操作

■ブローシャッターの操作は、シャッターフィンを上下させて行います。

シャッターフィン中央の膨らみに指をかけ、引き下げると開きます。閉じる時は、シャッターフィン中央を止まる位置まで押し上げます。

雨の日は、シャッターを閉じてください。



C シールドの開閉

①シールドオープン（開）

シールドを開くには、シールドロックの解除が必要です。シールド左下のロックレバーを外側に少し広げながら上げると、シールドロックの解除とシールドオープンが同時に行えます。

②シールドクローズ（閉）

シールドクローズは、ロックレバーに指をかけ、止まる位置までシールドを下げます。ロックレバーを外側に少し広げる動作（ロック解除）を行わずにシールドを上げてみても、シールドが開かなければOKです。



シールドロックが不完全な状態で使用すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまうおそれがあります。



ロック解除の動作を行わず無理にシールドを開くと、ロックレバーのピンや帽体側ロックボディーなどが破損します。



D デミストの使い方

① シールドをデミストポジションへ移行

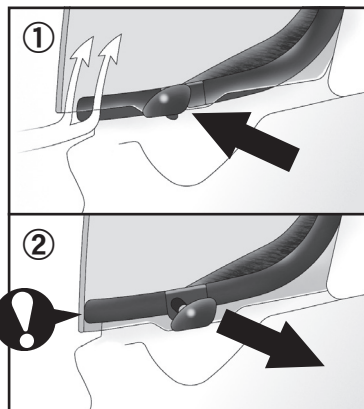
ロックレバーを斜め前方に押し出すと、レバーが『デミストポジション』に移動します。このポジションでは隙間から入り込む風によってシールドの曇りが軽減されます。

② シールドをロックポジションへ戻す

ロックレバーを手前に引くと、レバーが『シールドロックポジション』に戻ります。このポジションではシールドはロック状態になります。



シールドの不完全ロック防止のため、シールドをデミストポジションから全閉にする場合には、必ずロックレバーをシールドロックポジションに戻してください。



E マウスシャッターの操作

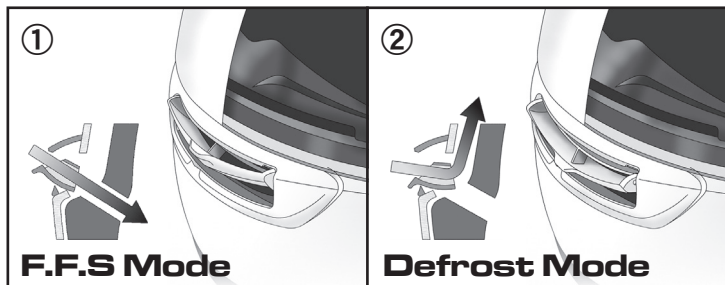
■マウスシャッターの開閉は、中央部に指をかけて上下させて行います。

① シャッター半開 (F. F. Sモード)

口元にこもる空気を、インテークからの気流に乗せて左右のF. F. S排気ポートより排出します。

② シャッター全開 (デフロストモード)

インテークからの気流をシールド内面に吹き付けて、シールドの曇りを軽減します。



F ディフレクターの着脱

① ディフレクターの取り外し

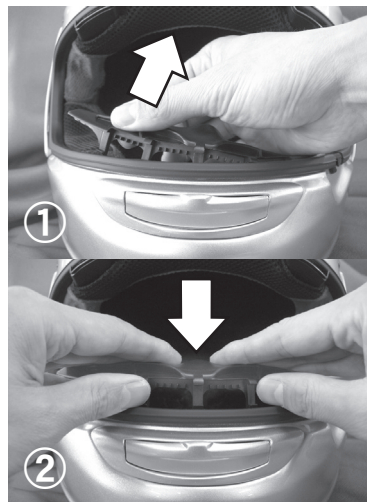
ディフレクター端部をしっかりと持ち、真上に引き上げると外すことができます。

② ディフレクターの取り付け

ディフレクターの中心とヘルメットの中心を合致させ、窓ゴムとセンターパッドとの隙間にディフレクターの足を奥までしっかりと差し込んでください。



ヘルメットを持ち歩く際はディフレクターを持たないでください。
ディフレクターが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

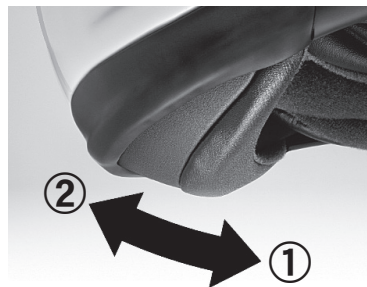


G エアロフラップの操作

フラップ展開はフラップ下部中央を摘み、①の方向に引き出します。収納はフラップ下部中央を②の方向に押し上げます。



ヘルメットの着脱や持ち運ぶ際にはフラップをヘルメット内に収納してください。また、フラップを停止位置以上に無理に引き出そうとすると、フラップが脱落するおそれがあります。



H ベンチレーションの操作

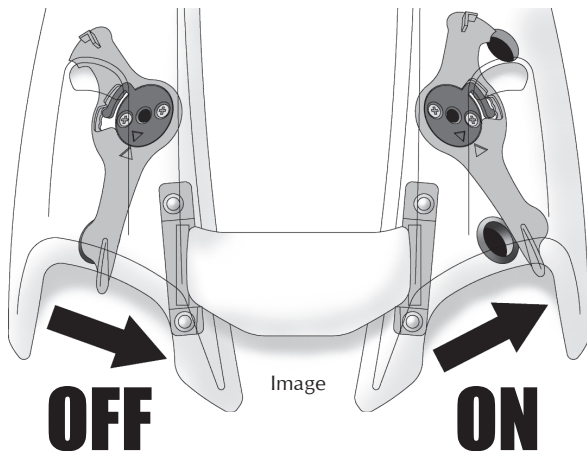
吸気ダクトの操作

ディフューザーインテークとデルタダクト5のシャッター開閉は、ダクト上にあるスイッチで行います。スイッチ後方を押すとシャッターが開き、前方を押すとシャッターは閉じます。



排気ダクトの操作

シャッターの開閉は、排気ノズル部のレバーで行います。各レバーを外側にスライドさせるとシャッターが開き、レバーを内側にスライドさせるとシャッターが閉じます。



雨の日は、インテーク側のシャッターを全て閉じ、ディフューザーシャッターを開きましょう。



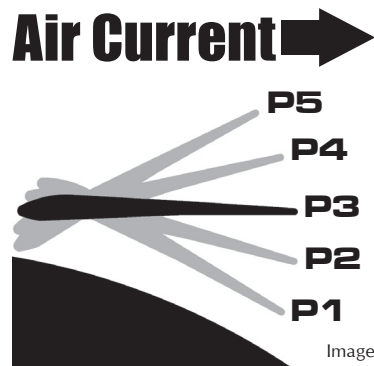
I エアロフィンの操作

エアロフィンの機能とは!?

ディフューザー後部に取り付けられたエアロフィンによってヘルメット上を流れる気流をコントロールし、ヘルメット後方に生じる乱気流を抑えて高速走行時のヘルメットの挙動を安定させます。エアロフィンは五段階に角度を変えられるので、所有されるオートバイやご自身の乗車姿勢に合わせたセッティングを行うことが可能です。

エアロフィンのセッティング方法

エアロフィンのセッティングは、ヘルメット上方の気流と平行にするのが基本です。右図の場合は【P3】の位置となります。しかし、オートバイの種類やカウルの有無、スクリーン形状によって気流は変化するので、オートバイに合ったセッティングを行う必要があります。エアロフィンの位置【P1】でヘルメットをかぶり、エアロフィンを動かして試走し、調節を行ってください。セッティングが良好な場合は、ヘルメットの高速走行時のブレが収束し、安定した状態をキープできます。



Image



走行中に調整を行うにはハンドルから手を離さなければならず、運転に支障をきたすおそれがあります。調節作業は安全な場所に停車してから行ってください。



エアロフィンはサーキット等の高い速度領域で、そのポテンシャルを最大限発揮します。よって、法定速度が定められた一般道では、エアロフィンによる効果が体感できない場合があります。また、気流を遮るようなオーバーセッティングだと乱気流が発生し、風切音やヘルメットの挙動を乱す原因となりますので、ご注意ください。

エアロフィンの操作方法

①エアロフィン後端の中央部をヘルメット前方に向けて2mmほど押すと、ベース部のロックが解除され、エアロフィンを自由に上下できるようになります。

エアロフィンを下ろす際は、エアロフィンベースのロック機構を解除する必要があります。



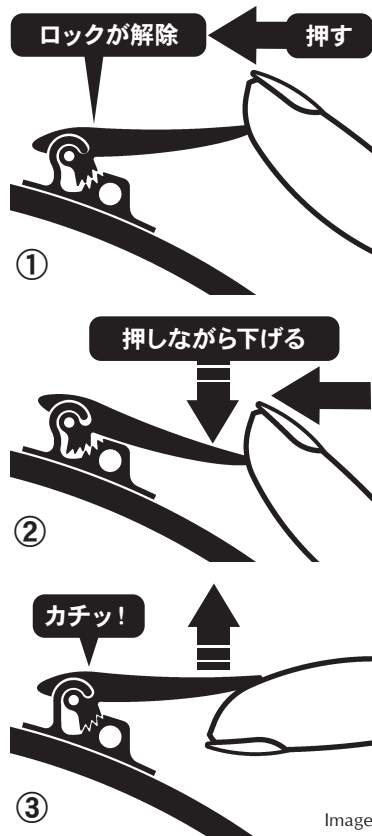
②エアロフィンを前方に押したまま、最下位置まで下ろします。

③エアロフィン後端の中央部を持ち上げると、カチッカチツ!と4段階に可動します。エアロフィンを上げすぎた場合は、①の【ロック解除動作】を必ず行ってからエアロフィンを下ろしてください。



ロックの解除を行わずにエアロフィンを無理に下ろしたり、可動範囲以上にエアロフィンを動かすと、エアロフィン及びエアロフィンベースが破損しますので、ご注意ください。

ヘルメットを持ち歩く際は、エアロフィンを持たないでください。エアロフィンが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。尚、ヘルメットに強い衝撃が加わると、路面への引っ掛かりを防止するためにエアロフィンはヘルメットから脱落します。



Ⅰ シールドの外し方

①シールドを全開にする！

まず、左側（L）からシールドの取り外しを行います。シールドロックを解除してシールドを全開にすると、シールドの動きと連動してホルダー内から【リリースレバー】が現れます。

シールドを全開にしていないと、シールドを取り外すことはできません。



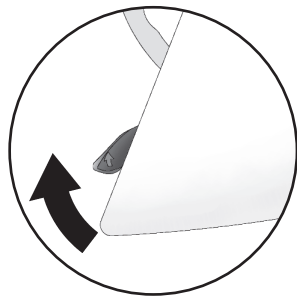
②リリースレバーを操作する！

シールドが全開になっているのを確認してリリースレバーの下に指をかけ、レバーに刻印された矢印の方向に引き上げます。ホルダー前方の直線ラインに対して約90度の角度になるまでリリースレバーを動かすことによってシールドが押され、シールドベースに設けられた段差（内部ロック）を乗り越えてシールドが取り外せるようになります。

①

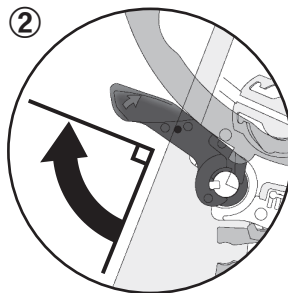


シールド全開にすると、

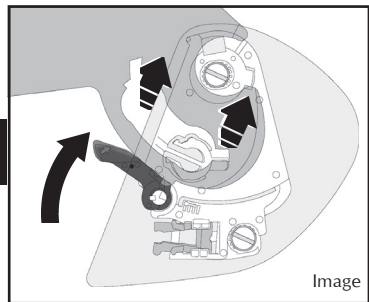


リリースレバーが現れる。

②



レバーを上げると、



シールドがロックを乗り越える。

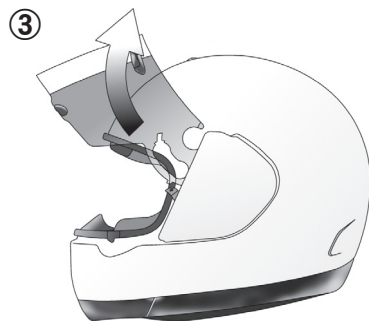


シールド左側を抜き取る際に生じるシールドの撓みにより、反対側のシールドに無理な力が加わるおそれがあります。左側を取り外す時には、右側のリリースレバーは同時に上げないでください。

③シールドを抜き取る！

内部ロックの解除が完了したら、シールドを全開位置から更に開くようにして、シールドをホルダー内から抜き取ってください。

ロック解除後、そのままの状態
で放置すると、シールドが再
ロックされてしまう場合にあり
ます。



④右側も同じ手順で！

左側の取り外しが完了したら、ヘルメットを持ち替え、右側のリリースレバーを押し上げ、内部ロックの解除を行います。そして左側と同様にシールドを全開位置から更に開くようにしながら、シールドをホルダー内から抜き取ってください。



シールド着脱作業は必ず手が乾いた状態で行ってください。手が濡れた状態で作業を行うと、誤って手を滑らせてヘルメットを落下させたり、思わぬケガを負ってしまうおそれがあります。



当ヘルメットには、【スーパーアドシスLシールド】を取り付けることはできません。必ず専用の【スー

SAI



パーアドシスI (アイ) シールド】をご使用ください。
シールドを外す時、内部ロックの解除が不完全な状態で無理にシールドを外そうとすると、ホルダーが外れたりシールドを破損させるおそれがありますのでご注意ください。リリースレバーをホルダー内に収納する際は、必ず下向きに収納してください。



K シールドの付け方

■シールドは片方ずつ取り付けを行います。

①シールドをあてがう！

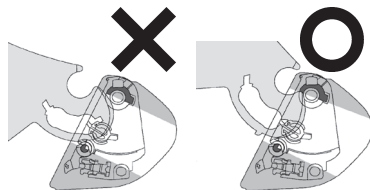
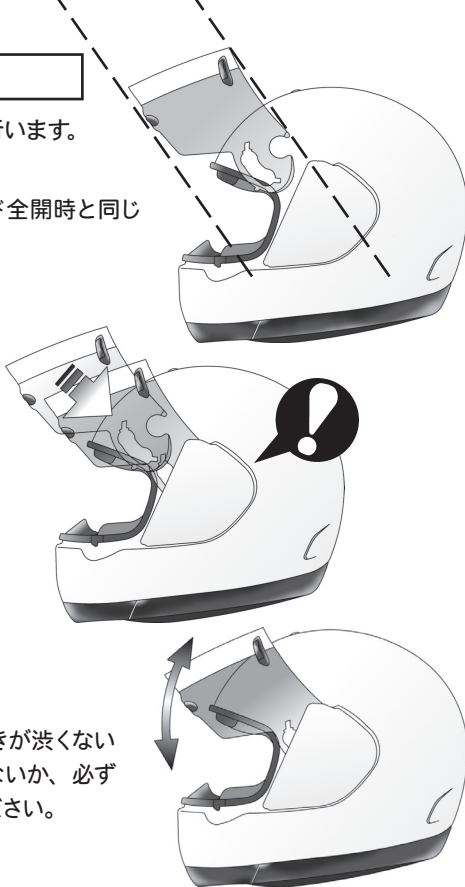
右図を参考に、シールドをシールド全開時と同じ角度でホルダーにあてがいます。

②シールドを差し込む！

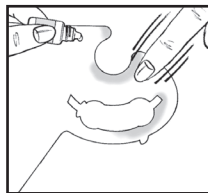
シールドの角度を変えないように注意しながら、シールドをベースとホルダーとの隙間にシールドを差し込みます。途中、内部ロックの段差で止まりますが、それを乗り越えるように更に差し込みます。そして、カシャッ!とロック音がしたら取り付け完了です。

③シールドの動作を確認！

シールドを上下させ、シールドの動きが渋くないか、ホルダー及びシールドが外れないか、必ず確認してからヘルメットをご使用ください。



シールドを差し込む角度が違くと、シールドベース構造によってシールドがブロックされるため、シールドを差し込むことができません。



シールドが入りづらい時は、ホルダーに差し込む時にシールドを小刻みに上下させながら差し込んでみてください。また、動きがスムーズでない場合は、上図のシールドのグレーの部分に潤滑用シリコンを少量塗布してください。

Iホルダーの着脱

■ホルダーの着脱は、予めシールドを取り外してから行います。

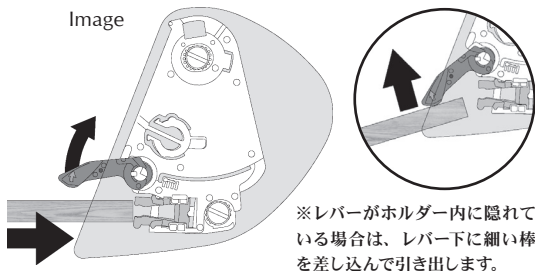
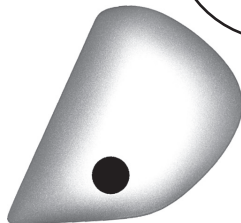
ホルダーの取り外し

先ず、リリースレバーを邪魔にならない位置まで上げます。次に、帽体とホルダーとの隙間に見える赤いロックレバーを、割り箸やスプーンの柄などで奥に押し込んでください。ロックが解除されるとホルダーが浮き上がりますので、ホルダーを上方に持ち上げてホルダーを外してください。

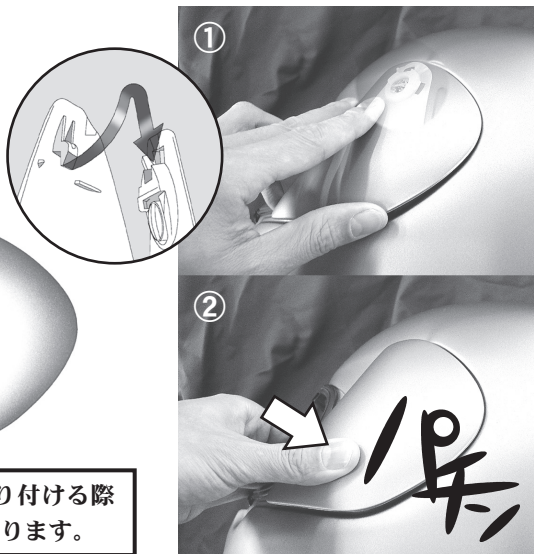
ホルダーの取り付け

ホルダー裏面の上部フックをベース上部の窪みに引っ掛け、ヘルメットの段差（ホルダーを取り囲むライン）とホルダー形状とを合致させます。次に、ホルダー裏に固定フックのある位置(下写真の●部分)を、ホルダー上から少し勢いを付けてパチン!と押し込んでください。

押し込んでパチンと音があっても、ロックが不十分な場合があります。ホルダー前方の隙間に指をかけ、めくるような力を加えてもホルダーが外れないことを確認してください。



※レバーがホルダー内に隠れている場合は、レバー下に細い棒を差し込んで引き出します。



注!

ホルダーの取り付けが不充分だと、シールドを取り付ける際やヘルメット着用時にホルダーが外れるおそれがあります。

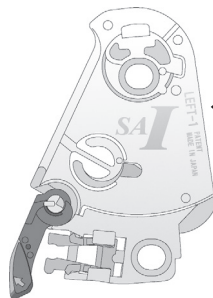
M シールドベースの着脱

シールドベースの取り外し

シールドベースの着脱は、シールドとホルダーを取り外してから行います。シールドベース（以降「ベース」と表記）を止めているネジは左に回すと緩みます。10円硬貨を使って全てのネジを緩めて外してベースを取り外します。

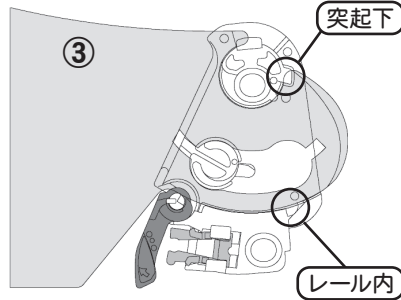
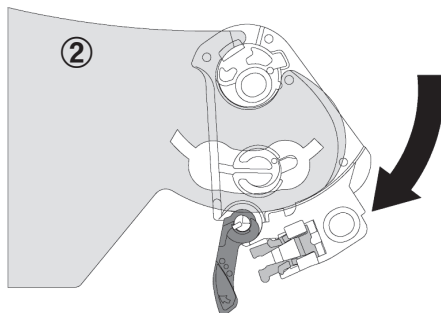
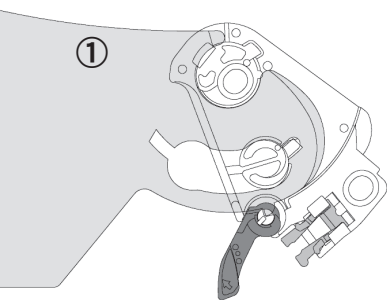
シールドベースの取り付け【準備作業】

ベースの刻印で左右を確認して、①のようにベースをシールドの内側からあてがいます。次に、②の矢印の方向にベースを回転させます。この時、リリースレバーは収納されます。ベースの回転が終了した時点で、③で示した部分のシールドが、ベースの突起下とベースのレール内に入っていることを確認してください。



矢印部分の刻印で、シールドベースの左右が分かります。

LEFT: 左
RIGHT: 右

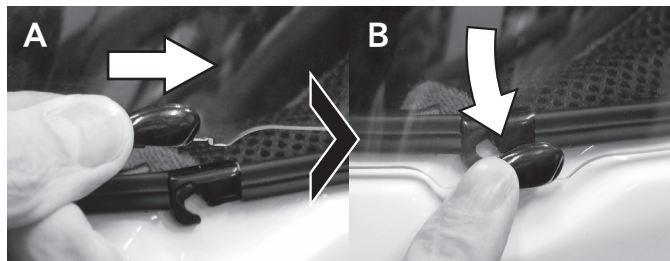


ヘルメットへの取り付け

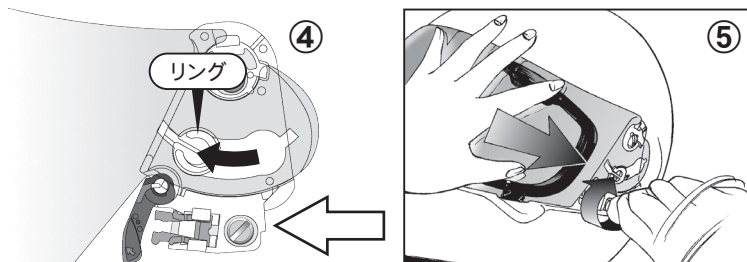
左右のシールドベースが取り付けられたシールドをヘルメットの窓にセットしてシールドベースをネジで取り付けますが、シールドベースが自由に動かせる程度にネジを締めてください。そして、ロックレバー裏面の突起がロックボディの下に正しく掛かっていることを確認してください。

A : ロックレバーが前に移動している場合は、止まる位置まで後退させます。

B : レバーを引き下げ、裏面の突起をロックボディの下に引っかけます。



次に、図④のようにシールドベースの下側を前に押し、シールドの穴の最前部にシールドベースのリングを密着させます。その後、図⑤のようにシールドを手のひらでシールドベース側に押し付けてシールドの内面が窓ゴムに密着するようにしてネジを締めます。この作業を左右に行ってください。



シールドが窓ゴム全周に密着するように、シールドを手のひらでベース側に押し付けながらネジを締めてください。



シールドベースの取り付けが完了したら一旦シールドを取り外します。そして、左右のホルダーを取り付けてから再度シールドを取り付けてください。

尚、シールドベース・ホルダー・シールドの取り付けが不完全な場合、使用中に脱落するおそれがあります。

シールドを上下に数回動かして動きが正常かどうか、作動確認を必ず行ってください。



N システムパッドの着脱

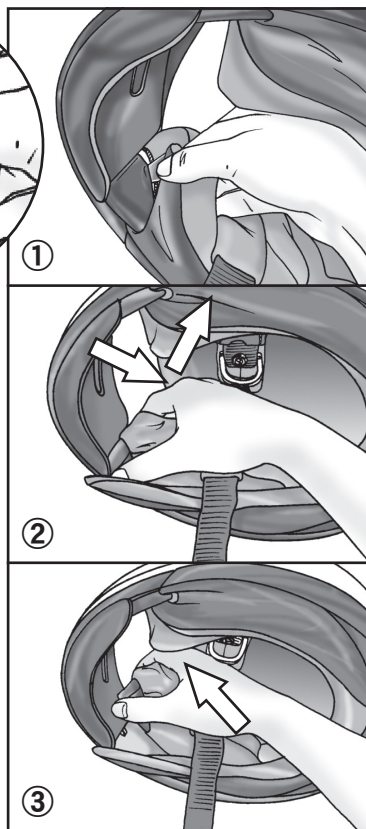
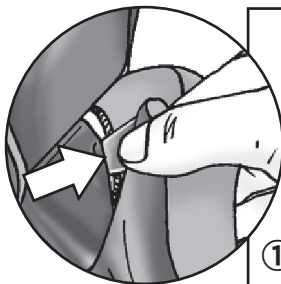
システムパッド内の緩衝体（発泡スチロール製）は、強い力を加えると折れてしまいますので取り扱いにはご注意ください。



システムパッドの取り外し

まず、システムパッド前方のポケットに差し込まれている【タブ】を抜き取ります。ネック先端を摘み、差し込まれているタブを矢印の方向に引き抜きます。

次に、システムパッドの前方を掴み、後方に向かってスライドさせます。すると、システムパッドの前方のロックが解除されるので、システムパッド前方を持ち上げます。パッドの前方が外れたら、システムパッド全体を掴んで斜め前方に抜き取ります。



当ヘルメットには、従来型システムパッドを取り付けることはできません。必ず専用の【RX-7RR5システムパッド】をご使用ください。

冷 / 乾内装は、路上に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた際は、新しい内装をお買い求めください。



システムパッドの取り付け

■予めあご紐をシステムパッド中央の穴に通しておきます。

システムパッドの後方から先にヘルメットにはめ込みます。システムパッド前方を、ロックされるまで上から押し付けます。取り付け後、システムパッド前方を上下左右に動かしても、システムパッドにガタ付きが生じなければOKです。

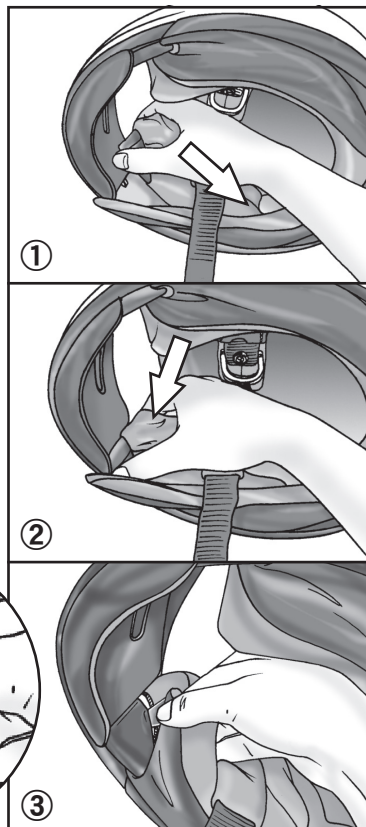
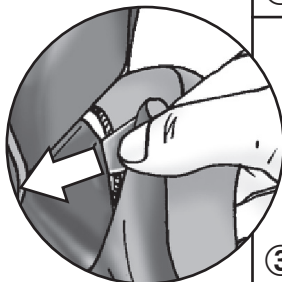
次に、あご紐を引っ張って弛みを取り除き、ネック先端のタブを、システムパッド前方に設けられたポケットに差し込んでください。

危! 険



パッド未装着のままヘルメットをかぶったり、パッド中央の穴にあご紐を通さないでパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。あご紐をパッド中央の穴に正しく通し、パッドを正しく取り付けでヘルメットをご使用ください。

ネック先端のタブの取り付けが不十分だと、ヘルメットの着脱時や走行中にタブが外れてしまうおそれがあります。

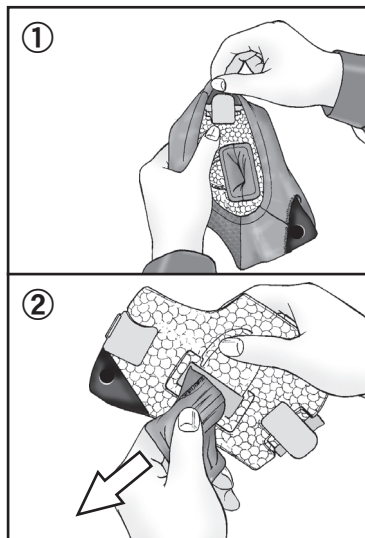


0 パッドカバーの着脱

パッドカバーの取り外し

システムパッド後部の、爪の部分よりパッドカバーを外します。そして、パッドカバー全体をパッド本体から外します。次に、システムパッド裏面のストッパー（あご紐の通る穴の、四角く固い部分）を持ち、パッドカバーを引き出します。

取り外したパッドカバーは、洗濯機で洗うことができます（洗濯ネット使用を推奨）。パッド本体は熱や変形に弱いデリケートな素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。



パッドカバーの取り付け準備

■システムパッド本体とパッドカバーの左右を確認します。

パッド本体とカバーには、左（LEFT）右（RIGHT）の表示ラベルが付いています。



パッド本体シール



カバータブ



パッドカバーの取り付け

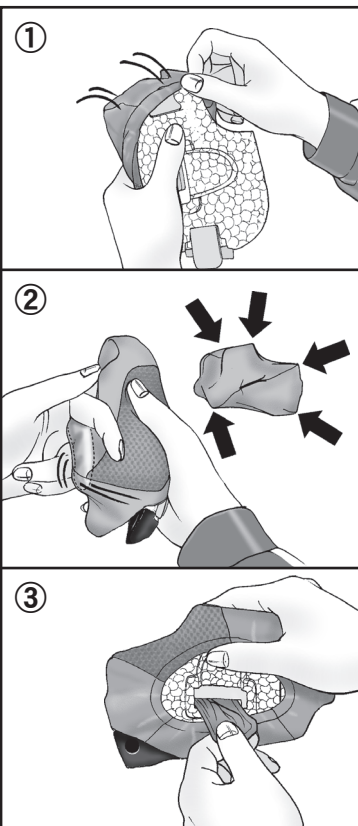
パッドカバー左右の確認後、図①のように、パッド本体に前方からカバーをかぶせます。この時、パッドカバー前方の穴からパッド本体の角が出るように、カバー位置の調節を行い、位置が整ったら後方のツメの部分にカバーをかぶせます。

カバーをかぶせた直後は、ウレタンの角がカバーに押されて丸まっています。このままではかぶり心地に影響してしまうので、ウレタンの角を出す作業が必要となります。ウレタンパッドの角を出すには、図②のようにシステムパッドの頬にあたる面の中央の穴に指を入れ、図②の矢印で示した部分のパッドカバーを指先でグイッと引っ張り上げます。すると、パッドとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンの角が回復します。

最後に、図③のようにシステムパッドの中央の穴にストッパーを縦向きにして通し、システムパッド裏面の四角い窪みにキチンと収めます。



完成写真



P ストラップカバーの着脱

ストラップカバーの取り外し

■ストラップカバーの着脱は、先に左右のシステムパッドを取り外してから行います。

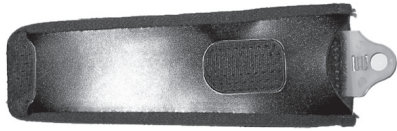
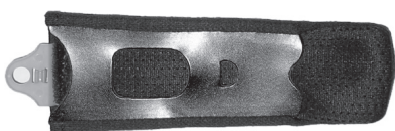
- ①ストラップカバー根元のカバーハンガーを摘みます。
- ②あご紐のアンカーから、カバーハンガーを取り外します。
- ③ストラップカバーをあご紐から抜き取ります。

カバーハンガーは、上からめく
るようにして外します。

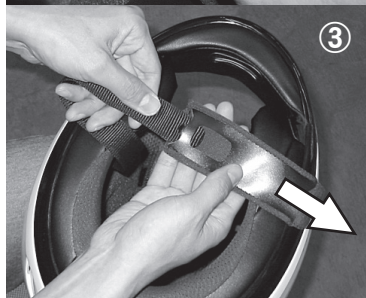
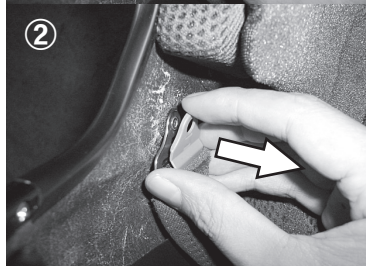


ストラップカバーの取り付け準備

■まず、ストラップカバーの左右と表裏を確認しておきます。



※ストラップカバーは、肌に直接触れる面を表、合成皮革面を裏とします。



左側（Dリング側） カバーの取り付け

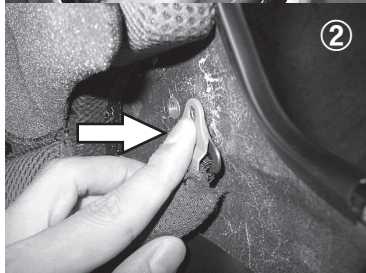
①カバーの裏合皮側と、あご紐Dリングのストラップスナップを手前に向けます。



※カバー途中の穴に指を入れ、Dリングを送り出すと、楽に通せます。



②カバーハンガーをあご紐のアンカーに重ね合わせて押し付けます。

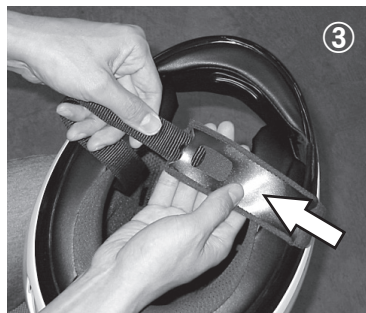


右側カバーの取り付け

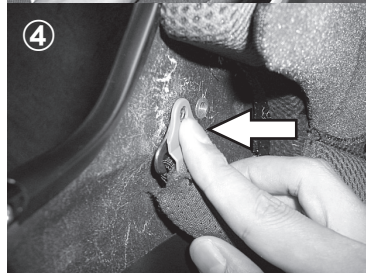
③カバーの裏と、あご紐先端部のストラップスナップ（**Aral** 刻印側）を手前に向けます。



※カバー途中の穴に指を入れてあご紐を送り出すと、楽に通せます。



④カバーハンガーをあご紐のアンカーに重ね合わせて押し付けます。



注意

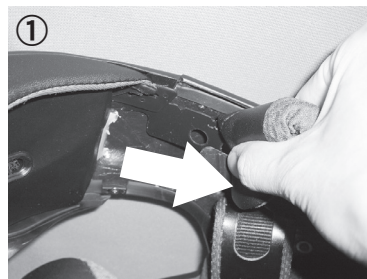
ストラップカバー未装着状態でヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際にストラップカバーが外れるおそれがあります。

Q システムネックの着脱

システムネックの取り外し

■予め、左右のシステムパッドを外しておきます。

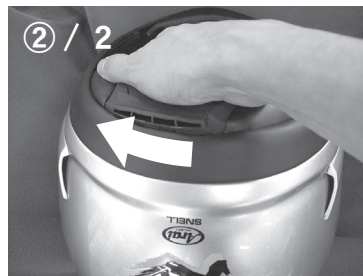
①センターパッドの両脇に差し込まれているシステムネックの先端（杵の延長部）を左右とも抜き取り、システムネックの先端及びサイド部をフリーにします。



②システムネックの中央をしっかりと持ち、横に3～4cmほど捻^{ひね}ります。すると、システムネックが移動してロックが解除されるので、システムネックを安全に取り外すことが可能となります。

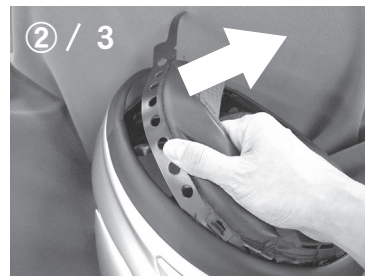


ネックの中央をしっかりと持つ。



横に捻^{ひね}ると、ネックがスライドします。

※捻^{ひね}る方向は、左右どちらでもOK！



ネックを杵ごと持って取り外します。



取り外しの際は、縫製のほつれ防止のためシステムネックを杵ごとしっかりと持ってください。また、ヘルメットを持ち歩く際にシステムネックを持つと、システムネックが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

システムネックの取り付け

①システムネックの両端部をすぼめ、ヘルメット内部に一旦入れます。そして、ヘルメット側の隙間にシステムネックの枠を均等に差し込み、システムネックの左右のズレを修正しておきます。

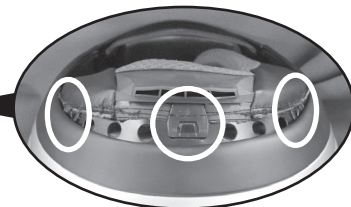
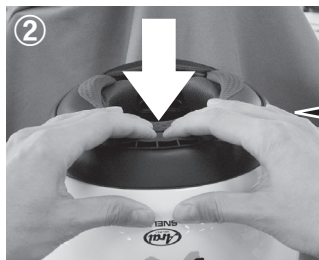
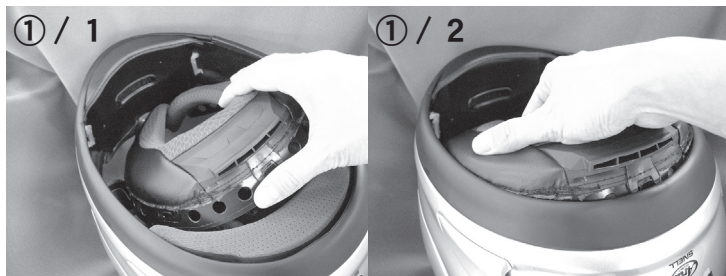
②次にシステムネック後部のフックの取り付けを行います。先に左右のフックを上から押し込んで取り付け、中央は写真②のように両手で摘むようにして取り付けます。

システムネック取り付け後、ネックを少し引っ張ってもフックが外れないことを確認してください。

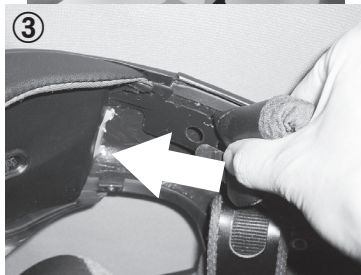


③システムネックの先端部をセンターパッドの裏に差し込み、システムパッドを取り付ければ作業終了です。

システムネックの枠がセンターパッドに正しく差し込まれていない場合、枠の先端部が皮膚に触れるおそれがあります。



フックの位置



システムネックについて

ヘルメットのサイズによって、システムネックの大きさが異なります。

53-54 ~ 59-60	M
61-62	L

R システム内装の着脱

システム内装の取り外し

システム内装は、四つのスナップで取り付けられています。それぞれのスナップのなるべく近くを持ち、ヘルメットの中心に向けて引っ張ってスナップを取り外してください。

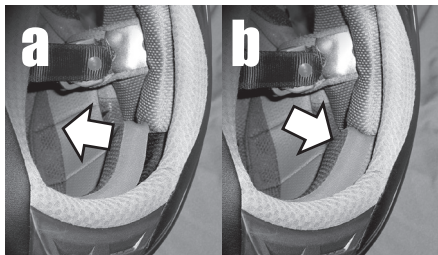


システム内装の取り付け

向きに注意してヘルメットに内装を入れます。そして、システム内装のそれぞれのスナップ位置を合わせて押し込みます。全てのスナップの取り付けが終了したら内装を確認し、全体の歪みを修正します。



必ず、全てのスナップを外してから内装を取り出してください。



注意事項

システム内装が頬パッドの後端に乗り上げた状態でヘルメットをかぶると、内装枠が皮膚に触れるおそれがあります。(写真a) ヘルメットをかぶった時に違和感がある時は、システム内装が内面に沿って正しく取り付けられているかどうかを確認してください。(写真b)

S ヘルメットサイズの微調整

■標準装備されているパッドではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で、頭周りと頬部のサイズ調節が行えます。システム内装とシステムパッドの、それぞれ厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には、お持ちのヘルメットの標準設定内装をご参照のうえ、お選びください。

システム内装による頭回りの調節

53-54cmと55-56cm、そして57-58cmと59-60cm未満には同じ大きさの内装枠が使用され、下表のような頭回りの調節が行えます。尚、枠のサイズが異なると、内装側の取り付けスナップの位置も異なるのでシステム内装を取り付けることはできません。

ヘルメットのサイズ	システム内装ラベル表示		
53-54cm	II-7mm	II-10mm	—
55-56cm	—	II-7mm	II-10mm
57-58cm	III-7mm	III-10mm	—
59-60cm未満	—	III-7mm	III-10mm
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

システムパッドによる頬部の調節

システムパッドは、内部のウレタンパッドの厚さが異なる以外は全て共通です。基本的に、どの厚さのシステムパッドもヘルメットに取り付けることは可能ですが、あまりにも極端な厚みの変更はお勧めできません。

ヘルメットのサイズ	システムパッドの厚み		
53-54cm	20mm	25mm	—
55-56cm	15mm	20mm	25mm
57-58cm			
59-60cm未満	12mm	15mm	20mm
61-62cm未満			
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる



※内装枠の大きさは、ギリシャ数字（I～V）で表示されています。左の表示の場合は枠の大きさがⅢ、パッドの厚みは10mmで、ヘルメットのサイズが57-58cmと59-60cmに対応するシステム内装となります。



内装パッドの厚みを標準設定よりも極端に変えると、ヘルメットがグラグラしたり、きつくなり過ぎたりして、かぶり心地を大きく損なうおそれがあります。

T ヘルメットのお手入れ

■ヘルメットは、シールド、ベンチレーションダクトなどの【樹脂成型品】、衝撃吸収ライナーの【発泡スチロール】、内装材の【発泡ウレタン】及び内装生地の【化学合成繊維】などで構成されています。これらの材料はシンナー系の溶剤、ガソリンなどに触れると素材が侵されて本来の機能を損ない、ヘルメットの安全装備としての性能を維持できなくなります。

シンナー等各種溶剤、ガソリン、軽油、灯油、ベンジン、ナフサ燃料、アルコール、エーテル、アルコールを含む各種クリーナーはヘルメットのお手入れに使用できません。

パーツ類のお手入れ（中性タイプの台所用洗剤をご使用ください）

ホルダーなどのパーツ類は、洗剤を適量の水で薄め、柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。



ヘルメットのお手入れに、アルコールを含むガラスクリーナーやシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。



ヘルメットの丸洗い（中性タイプの洗濯用洗剤をご使用ください）

ヘルメット本体を丸洗いする時は、ヘルメットからシールド、着脱式内装を取り外し、洗剤を少量溶かした水にヘルメット全体を浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗ってください。そして、洗い終わったら水でよく濯いで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



乾燥時、ドライヤー等で50℃以上の熱を加えたり、ヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。



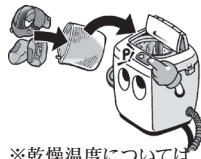
内装のお手入れ（中性タイプの洗濯用洗剤をご使用ください）

フルシステム内装（システム内装、システムパッドカバー、あご紐のカバー、システムネック）をヘルメットから取り外して手洗いをしますが、システム内装は内装の枠を折り曲げたり変形させないように、やさしく洗ってください。そして、洗い終わったら水でよく濯いで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



冷 / 乾内装は、路上に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた際は、新しい内装をお買い求めください。

内装を洗濯機で洗う際は、必ず「お洗濯ネット」に入れ、ソフト、弱、手洗いなど素材に負担をかけないモードで洗ってください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はご使用頂けません。



※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属の説明書でご確認ください。

シールドのお手入れ（中性タイプの台所用洗剤をご使用ください）

シールド表面にオイルやワックス、ガソリンなどが付着すると、目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは、薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で充分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールド素材は耐衝撃性に優れたものですが、アルコールを含むクリーナーやシンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用した場合、素材が侵されシールドにヒビ割れが発生し、万一の衝撃時に破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。



巻末付録①パーツリスト

パーツ名		部品 番号
スーパーアドシス I (アイ) シールド	クリアー	1101
	スモーク	1102
	ライトスモーク	1103
スーパーアドシス I ダブルレンズシールド	クリアー	1121
	セミスモーク	1122
スーパーアドシス I ポスト付シールド	クリアー	1111
	スモーク	1112
スーパーアドシス I 用ティアオフシールド		1387
スーパーアドシス J ホルダー	白	3500
	アルミナシルバー	3510
	ガラスホワイト	3526
	ガラスブラック	3527
	ブラチナグレー	3905
デルタダクト 5	クリアー	4900
	白	4901
	アルミナシルバー	4902
	ガラスホワイト	4903
	ガラスブラック	4904
	ブラチナグレー	4905
I Pディフレクター 2		2392
スーパーアドシス I シールドベース		2258
スーパーアドシスネジセット		2511

パーツ名		部品 番号
R X - 7 R R 5 システムパッド	1 2mm	4420
	1 5mm	4421
	2 0mm	4422
	2 5mm	4423
R X - 7 R R 5 システム内装	Ⅱ - 1 0mm	4251
	Ⅱ - 7mm	2452
	Ⅲ - 1 0mm	4255
	Ⅲ - 7mm	4256
	Ⅳ - 7mm	4259
R R 5 システムネック	L (61-62)	2760
	M (53-54 ~ 59-60)	2761
冷 / 乾ストラップカバー クールグレー		3606

巻末付録②ヘルメットのかぶり方

①あご紐をしっかり持って左右に広げます。すると、ヘルメットの間口が少し広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐ時も、かぶる時と同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。

②ヘルメットをかぶる際は真上からではなく、額を先に入れます。こうすると前髪が目の前に垂れにくくなり、耳たぶの折れ曲がりも防げます。

③天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っばります。そして、ヘルメットの位置を整えてあご紐を締めればヘルメットの装着は完了です。

巻末付録③シールドの選び方



晴れ

晴天時は、直射日光や路面の照返しを軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が明るい時間帯に限りご使用ください。



曇り 雨天

曇り空や雨天走行には、クリアーシールドがお勧め。

※車窓用の撥水剤などを使用した場合、含まれるアルコール成分によってシールド素材が侵されて、ヒビや割れが生じるおそれがあります。



夕方 夜

夕方や夜間走行には、クリアーシールドをご使用ください。

※ツーリング等で走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所で停車して、昼用シールドからクリアーシールドに交換してください。



オールウェザー

朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学ライダーや配達業務ライダーにはライトスモークシールドがお勧め。



株式会社アライヘルメット

〒330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12 Tel. 048-641-3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は、品質管理課まで。

Tel. 048-645-3661

受付時間9:00~17:00(土、日、祝日を除く)